

【単年度】出雲大社周辺エリアにおける観光客と地域住民の移動環境向上のための低速モビリティ導入に係る社会実験(島根県出雲市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ シェアドスペースによって整備されたエリアにおける低速モビリティの導入による道路空間の安全性にかかる検証を行う。
- ・ 低速モビリティと既存の歩行者・自家用車による道路空間のシェアに結びつく実験となっていること。

2. 実験内容、実験結果

①GSM乗合交通の導入

【狭隘な道路空間内での安全性】

- ⇒実験中のビデオ観測により、歩行者、自動車それぞれで安全性が一定程度確認できた。
- ⇒利用者、車両に遭遇した地域住民、運行事業者に対する調査の結果を見ても、それぞれの立場から安全性が確認できた。

【サービスや事業性】

- ⇒「金・土・日・月ルート」では、利用者数も多く、積み残しも発生する状況が見られた。
- ⇒観光客では、利用意向、魅力度の向上、満足度といった点でも評価が高く、GSMが観光満足度を向上させる可能性が高いことが明らかとなった。
- ⇒地域住民のGSMの利用意向、導入意向はそこまで高くはない結果であり、地域住民に対するサービス内容や地域との合意形成について、今後さらに検討が必要である。
- ⇒観光客と地域住民のどちらについても本格実施に向けた事業性の向上は課題であり、さらに実験を重ねて、持続可能な運行のあり方を模索する必要がある。

神門通り⇄稲佐の浜の観光に便利!

“グリーンズローモビリティ”の社会実験を行います

出雲大社周辺では、地域外から来訪された方や地域にお住いの皆さんの移動手段を確保し、魅力的な道路空間をつくるため、“グリーンズローモビリティ”を使用した社会実験を行うことになりました。

地域の中をゆっくりのんびり移動する“グリーンズローモビリティ”に、ぜひ乗ってみてください。

時速20km未満の速度で、のんびり走ります

観光にも、普段の移動にも使えます

決まった道を、決まった時間に走ります

運行日 11/12(金)～11/21(日) 毎日運行

運行便数 金・土・日・月 1日4往復 火・水・木 1日3往復

運賃 無料

注意

- ・ご利用は、ご自身で乗車し、座席前方の手すりがある方に限ります。
- ・6人乗りの車両で運行しているため、満席でご乗車いただけない場合もございます。申し取りませんが、次の座までお乗せできません。
- ・大きな荷物の車内への持ち込みは、ご遠慮願います。
- ・利用後のアンケート調査への協力をお願いします。回答結果をもとに、今後の方針を検討してまいります。
- ・運行の安全性を高めるため、前方をドライブレコーダーで録音しています。
- ・乗車中のマスクの着用等、新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。

ルートや運行時刻の詳細は裏面に

主催：出雲市低速モビリティ導入社会実験協議会(事務局 出雲市道路建設課)

金・土・日・月の運行 片道約20分

神速神事で神様がお通りになる“神速の道”を経由して稲佐の浜へ向かうルートです。ぜひ、観光にご利用ください。

運行時刻

出発大社時刻	稲佐の浜
9:20	10:20
11:20	12:20
13:20	14:20
15:20	16:20

事前予約は不要です。(満席の場合はお乗せできません)

乗り降りの区間以外は、自由に乗り降りできます。乗車の際は、手を挙げてお知らせください。降車の際は、運転手にお伝えください。

火・水・木の運行 片道約40分

地域のスーパーや行政センターを経由して、稲佐の浜へ向かうルートです。こちらも、観光にご利用いただけます。

運行時刻

稲佐の浜	1往	2往	3往
ショッピングセンター	8:00	10:40	18:10
行政センター	8:10	10:50	18:20
出雲大社前駅	8:20	11:00	18:30
ラピタ大社店	8:30	11:10	18:40
稲佐の浜	8:40	11:20	18:50

事前予約は不要です。(満席の場合は、次の便までお待ちください)

乗り降りの区間以外は、自由に乗り降りできます。乗車の際は、手を挙げてお知らせください。降車の際は、運転手にお伝えください。

出雲市低速モビリティ導入社会実験 委託事業者 株式会社バイタルード (担当: 眞田)

お問合せ 【運行期間外(平日9時～17時)】TEL: 0853-22-9690
【運行期間中(毎日8時～17時)】TEL: 080-8904-3009

社会実験広報チラシ

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
実験車両は乗車定員が6人と限られるため、積み残しが発生することが想定される。利用者同士の譲り合いがうまくできるような呼びかけ、コミュニケーションが必要だと考える。	周知用チラシ及び停留所看板に、「6人乗りの車両1台で運行しているため、乗車できない場合もある」という注意事項を分かりやすく表記した。運行マニュアルにも注意が必要な旨を記載し、運行事業者とも認識を共有した。今後は事前予約制等も検討予定である。
一般のドライバーが低速な実験車両に遭遇し、追い越し禁止区間で追い越しが発生することが懸念されるため、地元の方や観光客の方に周知をしていく必要がある。	地域住民に対しては、実験前に回覧や防災無線等で実験の期間や実験車両等について周知した。本格実施に向け、観光客、地域住民双方への効果的な周知方法を検討し、実施していく予定である。
ビデオ観測調査に加え、利用者のアンケート調査でも安全性に関する設問を設け、地域の方や利用者がどのように感じたか把握してはどうか。	利用者アンケート調査票中に、「乗車中に危険を感じたか」「具体的にどのような場面で危険を感じたか」という設問を追記した。回答結果より、9割以上の人が危険を感じなかったことを確認した。
ここ10年で実施された社会実験のうち、約4割が本格実施につながっていない。大きな要因として、体制面や資金面の問題がある。今後続けていくための資金の調達や体制について、実験終了後検討した方が良い。	本実験での各種アンケート調査結果、関係者へのヒアリング調査結果をもとに収支シミュレーションを実施した。今後は、利用者の満足度を上げるための付加価値の創出や、スポンサーの確保等を検討する予定である。

【単年度】出雲大社周辺エリアにおける観光客と地域住民の移動環境向上のための低速モビリティ導入に係る社会実験(島根県出雲市)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
地域住民の利用が1割程度で、地域への周知、利用促進が不足していた。また、地域住民アンケートの回収率は低く、導入意向も想定より低い結果となった。	地域と丁寧コミュニケーションをとりながら、地域内をGSMが運行することに対する理解を得る。
乗車可能人数が6人に限定されるため、多客日には積み残しが発生した。	増車、増便や予約制の導入などを検討し、地域内で移動手段を必要とする人が、より確実にGSMを利用できる体制を整える。
利用者の多くは現地に配置した本実験の係員からの声掛けでGSMの存在を認知し、利用している。	本格運行に向けては、より効果的な事業の周知、広報の方法を検討する。主に観光客を対象としたサービスとしての運行を検討する。ただし、定時定路線、有償でも可能な限り地域住民が利用しやすいサービス内容を設定し、地域住民の利用状況を確認する。
観光客・地域住民ともに支払意思額が低い。	一定のサービス水準の確保と魅力の付加を行うこと、またスポンサーを確保することで持続可能な運行とする。 有償化による需要の変化や事業性の検証、より魅力的かつ効率的なルートの検討、観光客の回遊性や消費行動、満足度等の効果検証などを行い、社会実装につなげる。

5. 今後のスケジュール

- 令和4年度:住民、観光客を対象として、本格運行の方向性を明らかにするための実験を実施
- 令和5年度:本格運行の方向性を明らかにするための実験を実施、関連交通課題について議論
- 令和6年度:本格運行
広域的な観光ルートの検討(ルートの見直し、予約や情報発信手法の検討)
関連交通課題の対策検討、実施

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 観光地におけるGSMの導入においては、観光客の移動手段と地域住民の移動手段との考え方の整理が必要である。
- ・ GSMの乗車可能人数や運行可能距離には制限があることから、本実験を行った出雲大社周辺のように観光客の多い地域では、観光客と地域住民との棲み分けが必要である。
- ・ 地域住民に対しては、GSMとは異なる移動手段を別途検討することが望ましい。
- ・ 観光客向けのGSMは、サービス内容などより観光に特化したアトラクショナルな要素をもたせることで、観光客の満足度向上や協賛金、広告料の募集なども行いやすくなる。